

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. アドミッションポリシーに基づいた選抜方法の維持と質の評価を実施する。	→アドミッションポリシーに基づいた選抜法評価の検討回数。	B	B	B	B	B
2. 多岐にわたる選抜方法の設定と多様な資質をもった学生を受け入れる。	→多様な資質に富む学生(各種入試で入学した学生)の割合。それらの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数。	A	A	A	A	A
3. 各種入試の公正さや適切さを評価する。	→入試制度検討委員会内での検討件数。	B	B	B	B	B
4. 入学後の追跡調査の体制をつくる。	→入学後の成績、GPAの数値。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 人間福祉学部のアドミッションポリシーに相応しい学生確保のために、毎年入試制度検討委員会において、各種入試の定員等学生の受け入れについて検討し、教授会等において決定している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 志願者倍率は、7.3倍から9.4倍の間で上下しており、学部のアドミッションポリシーは受験生にも理解されていると考えられる。入試の質的な検証について実施に向けた検討が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも学部のアドミッションポリシーに相応しい学生確保のために、入試制度の検討を行い、多様な学生の受け入れを促進する。	☆
		その他	
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 多岐にわたる選抜方法を採用し、多様な学生を受け入れている。また、特に障害学生については、「福祉」という特色を生かし、総合支援センターとも連携してきめ細かいサポート体制を整備しつつ受け入れている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 一般センター、一般関学、独自方式、一般全学日程、一般学部個別日程、AO、帰国生徒、外国人留学生、指定校・協定校・提携校・継続校推薦、スポーツ選抜、高等部推薦といった多岐にわたる選抜方法により、多様な学生を受け入れている。また、障害学生についても毎年受け入れ、学生生活や修学上のサポートを行っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも入試制度の検討を行い、学部のアドミッションポリシーに相応しい、多様な学生確保のために、各種の入学選抜を行っていく。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試制度検討委員会において、各年の入試結果の検証、入試制度の在り方等について検討を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各種の入試・推薦入学は個々に置かれる入試実行委員会のもとで、公正に実施され、人間福祉学部のアドミッションポリシーに相応しい、多様な学生の確保が行われている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも入試制度検討委員会において制度・課題の検討を行い、入試制度の公正さや適切さを継続して担保する。	☆
		その他	
			☆

目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試制度検討委員会において、入学後の成績やGPAについて検証している。また、各年度でGPA上位者の顕彰を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 入試制度検討委員会による入学後の成績やGPAの検証結果を、教授会等において共有し、構成員の入試制度全般に対する関心を高めている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも入試制度検討委員会において、入学後の成績やGPAについての追跡調査を行い、その検証結果をもとに入試制度の検討を行う。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【人間福祉学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	300	300	300	300	300	
指標2	志願者総数	人	2,480	2,623	2,219	2,826	2,184	
指標3	合格者数	名	707	665	673	681	611	
指標4	入学者数	名	350	327	332	339	310	
指標5	志願者倍率	倍	8.3	8.7	7.4	9.4	7.3	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍			1.09	1.11	1.11	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	43.7%	40.4%	40.1%	40.7%	38.1%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	900	1,200	1,200	1,200	1,200	
指標9	在籍学生数	名	977	1,305	1,358	1,393	1,359	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	108.6%	108.8%	113.2%	116.1%	113.3%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	(7)	(15)	(13)	(9)	(9)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	9	15	10			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入